

加茂南小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

取り組む、わかる、伝え合う、笑顔あふれる学校に
学力向上をめざした個に応じたきめ細かな指導
①「学習のめあて」と「振り返り」を重視した授業の流れの確立
②個の学習状況の把握と具体的な対応策の研究
③アクティブ・ラーニングの視点に立ったわかる授業の工夫
④児童が主体的に取り組むカリキュラムの編成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 教頭:佐川知徳 田上 尚
推進員:野々瀬照代 福本公美子 竹内博美 庄野恵美
小川雅功 太田彩子 橋 香織 中川樹子
研修主任:岡内 美和

校長 島田 昭夫

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 基礎的・基本的な知識・技能を学ぼうとする意欲が少しずつ育ってきた。定着の不十分な児童も課題克服に向けて取り組んでいる。学習規律への理解は進んできた。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②内容を理解して文章を読んだり、正しい言葉で書いたりできる。	①基礎的・基本的な事項についての定着確認テストで、正答率を80%以上にする。 ②「国語・算数の授業の内容はよく分かりましたか」(児童へのアンケート)の割合を83%以上にする。	・「加茂南スタンダード」の作成と共通理解 ・ミニワークシート、ミニテストの継続実施 ・タブレットPCの効果的な活用	評価	次年度における改善事項
課題 基礎、基本を理解していると捉えている児童は多いが、定着には至っていない。根気よく続けることは特に苦手である。	①朝の活動(漢字・計算・視写・読書等)の充実を図る。 ②ICT機器の活用や効果的なTTのあり方について検討し、「楽しい授業」を実践する。 ③基礎・基本の定着に向けミニワークシート等を実施する。	①朝の活動計画を作成し、学年間で1学期ごとに見直す。 ②TTおよびICT機器の活用に関して情報交換を行う。			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 各教科、総合的な学習の時間など1つの単元、題材の中ではそれまでの学習を活用する姿が見られることもある。	①友だちの意見を肯定的な気持ちで聞く。 ②課題に主体的に取り組む、自分の考えを進んで話したり書いたりすることができる。	①「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意」と答える児童割合を50%以上にする。 ②発表ナビ等を使って考えを高める学習が展開される。	・授業研究会による効果と活用方法の共通理解 ・研究内容の具体的活用の実施と効果の検証 ・「加茂南スタンダード」の活用による授業改善	評価	次年度における改善事項
課題 他者の考えをもとに自らの考えを述べたり、思いを伝えたりすることができていない。	①意見を聞く環境作りに努め、発表しやすい雰囲気を作る。 ②授業において、様々な文章を声に出して読む機会や自分の考えを書いたり、話したりする機会を積極的に設ける。 ③知識・技能を活用する学習を設定する。	①自分の考えや感想を書いたり話したりする活動を単元のなかで意図的に取り入れる。 ②教科を横断して基礎基本を活用し、意見のつながり、伝え合いの見える授業展開を研究する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ノート指導、自主学習の内容の公開により工夫して学習に取り組もうとする児童が増えつつある。	①学習や課題について、自分から進んで取り組もうとしている。 ②家庭学習にも工夫して進んで取り組んでいる。	①「家で、自分で勉強をしている」(児童へのアンケート)の割合を83%以上にする。 ②ノートを丁寧に工夫してとる。	・各学年におけるカリキュラム・マネジメントの効果の検証 ・家庭学習への取組向上に向けた啓発の継続	評価	次年度における改善事項
課題 日々の授業に関心をもち、予習、復習など主体的に学習に取り組もうとする児童がやや少ない。	①「家庭学習の手引き」を活用し、家庭と連携しながら、児童の家庭学習の定着を図る。 ②模範的なノート等の公開を積極的に行い、よりよい工夫を共有できるようにする。 ☆児童が意欲的に学習に取り組むカリキュラムを編成する。	①家庭学習の様子を毎月の学年通信等で広報する。学期ごとに学力向上を啓発する便りを広報する。 ②模範的なノートを公開し、保護者や児童の意識を啓発する。			

平成29年度 学力向上ロードマップ

